



第4次播磨町 総合計画

概要版

基本計画中間見直し



まちが いきいき きらめくはりま
～未来につなげる みんなのまちづくり～



平成 28 年度～平成 32 年度 (2016-2020)
兵庫県播磨町

第4次播磨町総合計画 基本計画中間見直し



平成23年4月から10年間の計画で、第4次播磨町総合計画をスタートさせてから、はや5年が経過いたしました。この間、本町といたしましては、まちの将来像である「まちがいきいき きらめくはりま」の実現に向け、子育て、教育、福祉、防災をはじめ様々な施策に取り組んでまいりました。

年々、社会情勢も目まぐるしく変化し、人口減少・少子高齢化問題など様々な課題が山積するなかで、総合計画の中間年にあたり、本町の行う施策の検証や住民のニーズを把握するため、アンケート調査を実施し、多くの皆様からご意見をいただきながら、総合計画基本計画の見直しを実施いたしました。

この見直しに際しては、効果的な施策を進め、持続可能な行財政運営を維持していくことを目標に、これまでの基本的な事項や目指すべき方向性は維持しつつ、新たな施策を追加するなど、時代にあったものへと見直しを行いました。

また、平成27年10月に策定した「播磨町人口ビジョン」及び「播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略」のなかでは、人口減少や地域経済縮小の克服など様々な施策を定めており、これらの施策についても総合計画基本計画の見直しの中に包括されております。

平成29年4月には、町制施行55周年を迎えます。これを契機に総合計画の実現に向けた取り組みをさらに進め「きっと 住みたくなるまち」を目指してまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、アンケート調査などご協力いただきました皆様、「第4次播磨町総合計画の中間見直しに係る懇談会」の委員の皆様方に深く感謝申し上げます。

平成28年3月

播磨町長 清水 ひろ子



序論

1 計画策定の趣旨

1 基本計画中間見直しの趣旨

本町は、平成 23 年度を初年度とする第 4 次播磨町総合計画において、「まちがいきいききらめくはりま～未来につなげるみんなのまちづくり～」をテーマに掲げ、その実現に向けたまちづくりを進めています。

この間、本町を取り巻く状況は、本格的な人口減少・少子高齢社会の到来、地域経済の縮小、東日本大震災等を契機とした安全・安心に対する要請の高まり、女性の活躍推進など、大きく変動しています。

また、行財政運営については、厳しい財政状況が続くなか、人口減少や高齢化の進展に伴う税収の減少や福祉面での支出の増大、公共施設等の老朽化や多様化する住民ニーズへの対応、さらには地方創生への取り組みなど、新たな課題に直面しています。

こうしたなか、社会経済情勢の動向を踏まえ、播磨町のまちづくりにおける課題に適切に対応するため、平成 23 年度～平成 32 年度を計画期間とする基本計画をその基本的事項や方向性は維持しつつ必要な見直しを行うものです。

2 計画の構成と期間

本町の総合計画は、「基本構想」と「基本計画」、別に定める「実施計画」で構成されています。また、計画の対象は町が主体となる施策や事業を対象としますが、国や兵庫県に関連計画及び広域的視点から周辺市町との連携にも配慮したものとします。

■ 計画の構成



基本構想

本町が目指すべき将来像を方向づけるとともに、行政が住民との協働のもとで実現を目指す目標として位置づけ、平成 23 年度からの 10 年間を目途に、長期的な視点のもと、住民、NPO・ボランティアなどの地域の団体、事業者、行政の共通の指針として、町の理念、将来像、施策の方向を定めます。

基本計画

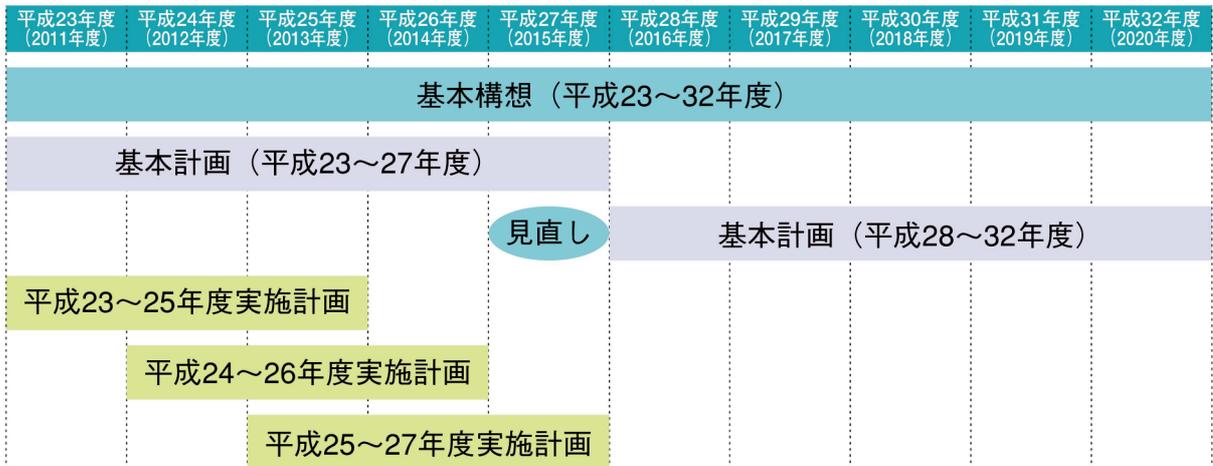
基本計画は基本構想に掲げる将来像を実現するための施策を具体化し、各分野にわたって特に取り組むべき諸施策の方針と具体的内容を住民、NPO・ボランティア、事業者などの地域の活動主体及び行政の担うべき役割を踏まえて総合的、体系的に明らかにするものであり、実現性を確保するため、併せて成果指標を設定します。

実施計画

基本計画に掲げる政策を実現するための具体的な事務事業を明らかにするもので、毎年度の予算編成の指針とします。計画期間は 3 年間とし毎年度ローリング方式^{*}で見直します。

1 ^{*}ローリング方式：計画の実施過程で、計画と実績に食い違いが生じていないかをチェックし、違いがある場合は実績をもとに計画を再編成して目標の達成を図る方式。

■計画の期間



3 基本構想の基本理念・将来像

基本理念

- ①ふるさと愛あふれるまちづくり
- ②人とひと、人と地域が響き合うまちづくり
- ③安心して快適に暮らせるまちづくり
- ④コンパクトで活力あるまちづくり

将来像

まちの将来像は、住民、NPO・ボランティア、事業者、行政などが互いに協力してまちづくりを進めていく上での10年間の播磨町の共通イメージです。

まちの将来像とまちづくりのキャッチフレーズ

まちが いきいき きらめくはりま
 ～ 未来につなげる みんなのまちづくり ～

2 まちづくりの背景

1 社会の潮流

- 本格的な人口減少・少子高齢社会の到来
- 地域経済の縮小とその克服
- 安全・安心に対する要請の高まり
- 女性の活躍推進
- 持続可能な自治体経営への対応

2 将来目標人口

将来目標人口については、基本構想策定時点では、将来的な人口減少が予測されていたなか、目標年次である平成32年の将来人口として、平成20年の人口規模（34,281人・住民基本台帳人口）を維持することを目標としていました。

一方、平成27年10月に策定した「播磨町人口ビジョン・総合戦略」においては、子育て支援策や教育施策の充実をはじめ、まちの魅力のPRや企業との交流を通じた定住人口・交流人口の呼び込み、健康・長寿の社会づくりの推進などに引き続き取り組むことにより、平成32年の人口を、平成22年の人口規模（33,180人・国勢調査人口）である33,000人程度と展望しています。

平成27年時点での人口は34,645人（住民基本台帳人口）であり、基本構想で設定した将来目標人口と同規模で推移していることから、今後とも、子育て支援策や教育施策の充実をはじめ、まちの魅力のPRや企業との交流を通じた定住人口・交流人口の呼び込み、健康・長寿の社会づくりの推進などに引き続き取り組むことで、目標年次においても現在の人口の維持を目指します。